

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

麦類赤かび病の発生状況と防除対策（技術情報第1号）について（送付）
このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、参考資料として御活用ください。

記

1 麦類赤かび病の発生状況と気象予報

- (1) 4月中旬の発生予察巡回調査では、生育の早いほ場で発生が認められ、発病穂率0.3%（平年0.0%）で平年比やや多の発生であった（表1）。
- (2) 本病は、4月下旬～5月中旬頃に降雨が続き、気温が20～27 くらいの比較的高温になると発生が増加しやすい。4月16日福岡管区気象台発表の九州北部地方1ヶ月予報では、降水量は平年並または多く、気温は4月下旬は平年より低いが、5月上中旬は高い予想であるため、本病の発生が増加する可能性がある。

2 防除対策

- (1) 赤かび病の感染を抑制するために、必ず2回防除を行う。二条大麦の防除適期は、穂揃い期10日後と、その1週間後の2回である。小麦の防除適期は、開花最盛期と、その7～10日後の2回である。
- (2) 小麦における2回目防除の適期は、開花最盛期7～10日後であるが、20日後まで防除効果が認められる。降雨等で2回目防除の適期を逸したほ場でも、開花最盛期後20日以内であれば、防除を行う。
- (3) 防除に当たっては、収穫前日数等の農薬使用基準を遵守する。

表1 発生予察巡回調査における赤かび病の発生状況（発病穂率(%)）

年度	本年	平年 (H12～21)	H21	H20	H19	H18	H15 (多発年)	H10 (多発年)
4月中旬	0.3	0.0	0.0	0.0	0.0	0.2	0.0	7.3
5月中旬	-	5.3	0.0	0.0	0.0	5.8	24.7	84.0

注1) 県内18ほ場について、1ほ場当たり50穂を見取り調査。

熊本県農業研究センター生産環境研究所
病害虫研究室 予察指導係（病害虫防除所）
担当：東・山口